

審 議 事 項

件名・議案	提案者	資料 (頁)	提案理由等 (※シンポジウム等、後援関係については概要を記載)	説明者	根拠規定 等
I 審議事項					
1. 規則関係					
提案1	「日本学術会議の運営に関する内規」の一部を改正すること	会長	B(5)	「日本学術会議の運営に関する内規」について、講演会、シンポジウム等主催提案書に関する改正を行う必要があるため。	会長 —
提案2	「日本学術会議分野別委員会及び分科会等について」の一部を改正すること	会長	B(6)	「日本学術会議分野別委員会及び分科会等について」について、講演会、シンポジウム等主催提案書に関する改正を行う必要があるため。	会長 —
提案3	「日本学術会議主催学術フォーラムの選定及び実施について」の一部を改正すること	会長	B(7)	「日本学術会議主催学術フォーラムの選定及び実施について」について、学術フォーラムの選定に関する改正を行う必要があるため。	会長 —
2. 委員会関係					
提案4	(分野別委員会合同分科会) (1) 第三部理工学ジェンダー・ダイバーシティ分科会小委員会を設置すること	第三部長	B(8)	第三部理工学ジェンダー・ダイバーシティ分科会に小委員会を設置する必要があるため。	第三部長 会則第27条1項、第79回幹事会決定「部が直接統括する分野別委員会合同分科会について」
提案5	(分野別委員会) (1) 委員会委員の決定(追加1件) (2) 小委員会委員の決定(新規2件、追加1件)	第二部長、第三部長	B(9-10)	分野別委員会における委員、小委員会委員を決定する必要があるため。	第二部長 第三部長 (1) 内規18条、内規12条1項(2) 内規18条
3. 国際関係					
提案6	令和3年度代表派遣について、実施計画の変更、追加及び派遣者を決定すること	会長	B(11-12)	令和3年度代表派遣について、実施計画の変更、追加及び派遣者を決定する必要があるため。	高村副会長 国際交流事業の実施に関する内規第19条2項、21条、22条
提案7	令和3年度フューチャー・アースに関する国際会議等への代表者の派遣の決定について	会長	B(13-14)	令和3年度フューチャー・アースに関する国際会議等への代表者の派遣を決定する必要があるため。 ※国際委員会9月29日承認、同フューチャー・アースの国際的展開対応分科会9月20日承認	高村副会長 国際学術交流事業に関する内規53条5項

4. その他のシンポジウム等

提案8	公開シンポジウム 「オープンサイエンスをめざしたデジタル農業の胎動」の開催の中止について	食料科学委員会委員長	B(15-16)	主催：日本学術会議 農学委員会・食料科学委員会合同農業情報システム学分会、農学委員会農業生産環境工学分会、日本生物環境工学会 日時：令和3年9月8日（水）13:15~15:50 場所：神戸大学農学部 C101教室 ※第312回幹事会承認済みの公開シンポジウムについて、開催を中止とするもの	—	内規別表第1
提案9	公開シンポジウム 「地域共生社会における薬剤師像を発信する」の開催について	薬学委員会委員長	B(17-18)	主催：日本学術会議 薬学委員会、日本薬学会 日時：令和3年11月3日（水、祝日）13:00~17:00 場所：オンライン開催 ※第二部承認	—	内規別表第1
提案10	公開シンポジウム 「カーボンニュートラルに向けた熱エネルギー利用の可能性と課題（仮）」の開催について	環境学委員会委員長、化学委員会委員長、総合工学委員会委員長、材料工学委員会委員長	B(19-20)	主催：日本学術会議 化学委員会・総合工学委員会・材料工学委員会合同 触媒化学・化学工学分会、日本学術会議 環境学委員会環境科学分会、日本学術会議 総合工学委員会エネルギーと科学技術に関する分会 日時：令和3年11月6日（土）13:00~17:15 場所：早稲田大学リサーチイノベーションセンター（121号館）カンファレンスルーム（オンラインハイブリッド形式） ※第三部承認	—	内規別表第1
提案11	公開シンポジウム 「防災教育と災害伝承」の開催について	防災減災学術連携委員会委員長	B(21-22)	主催：日本学術会議 防災減災学術連携委員会 日時：令和3年11月6日（土）14:30~16:00 場所：オンライン開催（予定）	—	内規別表第1
提案12	公開シンポジウム 「21世紀の国難災害を乗り越えるレジリエンスとは～防災統合知の構築戦略～」の開催について	土木工学・建築学委員会委員長	B(23-24)	主催：日本学術会議 土木工学・建築委員会IRDR分会 日時：令和3年11月6日（土）16:30~18:00 場所：オンライン(zoom) ※第三部承認	—	内規別表第1
提案13	公開シンポジウム 「フードシステムと養殖の未来」の開催について	食料科学委員会委員長	B(25-26)	主催：日本学術会議 食料科学委員会水産学分会 日時：令和3年11月12日（金）13:00-17:00 場所：オンライン（予定） ※第二部承認	—	内規別表第1
提案14	公開シンポジウム 「政治学におけるアナキズムの意味 ～社会と国家をとらえ直す～」の開催について	政治学委員会委員長	B(27-28)	主催：日本学術会議政治学委員会政治思想・政治史分会 日時：令和3年11月12日（金）17:30~19:30 場所：オンライン開催 ※第一部承認	—	内規別表第1
提案15	公開シンポジウム 「なぜSDGs?—資源・材料循環におけるSDGs—」の開催について	材料工学委員会委員長	B(29-30)	主催：日本学術会議 材料工学委員会・総合工学委員会・環境学委員会 SDGsのための資源・材料の循環使用検討分会 日時：令和3年11月26日（金）14:00~18:00 場所：東京大学生産技術研究所コンベンションホール ※オンライン配信予定あり ※第三部承認	—	内規別表第1

提案16	公開シンポジウム 科学的知見の創出に資する可視化(6) 「総合知～幸福論からみた身心・細胞力、その真理の可視化～」の開催について	総合工学委員長	B(31-33)	主催：日本学術会議 総合工学委員会科学的知見の創出に資する可視化分科会 日時：令和3年11月30日(火) 13:00～17:00 場所：日本学術会議大会議室、オンライン開催(ハイブリッド) ※第三部承認	—	内規別表第1
提案17	公開ワークショップ 「Future Earth 持続可能な社会の創り手を育てる学び～海の学び、ESD/SDGsの学びを豊かに～」の開催について	フューチャー・アースの推進と連携に関する委員会委員長	B(34-35)	主催：日本学術会議フューチャー・アースの推進と連携に関する委員会持続可能な発展のための教育と人材育成の推進分科会 日時：令和3年12月19日(日) 13:00～16:00 場所：オンライン開催(予定)	—	内規別表第1

5. 後援

提案18	国内会議の後援をすること	会長	—	以下の会議について、後援の申請があり、関係する部に審議付託したところ、適当である旨の回答があったので、後援することとしたい。 ①SAMPE Japan 先端材料技術展2021 主催：先端材料技術協会(SAMPE Japan)、日刊工業新聞社 期間：(オンライン会場)令和3年11月24日(水)～12月10日(金)、(リアル会場)令和3年12月1日(水)～3日(金) 場所：東京国際展示場(東京ビッグサイト)西ホール及びオンライン開催 参加予定者数：(オンライン会場)約13,000人、(リアル会場)約23,000人 申請者：先端材料技術協会(SAMPE Japan) 副会長 鶴澤 潔、日刊工業新聞社代表取締役 井水 治博 ※第三部承認 ②第45回人間－生活環境系シンポジウム 主催：人間－生活環境系学会 期間：令和3年12月4日(土)、5日(日) 場所：大同大学及びオンライン開催 参加予定者数：約100人 申請者：人間－生活環境系学会会長 高田 暁 ※第二部、第三部承認	会長	後援名義使用承認基準3(2)ウ
------	--------------	----	---	---	----	-----------------

II その他

	件名	資料(頁)
1.	今後の総会及び幹事会開催予定 今後の幹事会及び総会の日程につきご確認ください。次回幹事会は10月28日(木)13:30～開催。	C(1)

日本学術会議の運営に関する内規（平成17年10月4日日本学術会議第1回幹事会決定）の一部を次のように改正する。

改正後	改正前
<p>別表第2（第5条関係）</p> <p>講演会、シンポジウム等主催提案書 (略)</p> <p>8. 次第： 主催する委員会等の委員の複数が挨拶又は報告・講演等を行うことが必要です（但し、学術会議の目的に照らして極めて重要な講演会等であって、委員会等ではなく学術会議が主催する講演会等については、挨拶等は一人で足りる）。 該当する報告・講演等については、下線を引いてください。 <u>登壇者等の多様性も十分に考慮してください。特に、登壇者や発言者等が2人以上いる場合、その「性別に偏りが無いよう努めて」</u>ください。</p> <p>(略)</p>	<p>別表第2（第5条関係）</p> <p>講演会、シンポジウム等主催提案書 (略)</p> <p>8. 次第： 主催する委員会等の委員の複数が挨拶又は報告・講演等を行うことが必要です（但し、学術会議の目的に照らして極めて重要な講演会等であって、委員会等ではなく学術会議が主催する講演会等については、挨拶等は一人で足りる）。 該当する報告・講演等については、下線を引いてください。</p> <p>(略)</p>

附則（令和3年 月 日日本学術会議第 回幹事会決定）
この決定は、決定の日から施行する。

日本学術会議分野別委員会及び分科会等について（平成20年10月23日日本学術会議第67回幹事会決定）の一部を次のように改正する。

改正後	改正前
<p>(別紙7) 講演会、シンポジウム等主催提案書 (略)</p> <p>8. 次第： 主催する委員会等の委員の複数が挨拶又は報告・講演等を行うことが必要です（但し、学術会議の目的に照らして極めて重要な講演会等であって、委員会等ではなく学術会議が主催する講演会等については、挨拶等は一人で足りる）。 該当する報告・講演等については、下線を引いてください。 <u>登壇者等の多様性も十分に考慮してください。特に、登壇者や発言者等が2人以上いる場合、その「性別に偏りが無いよう努めて」</u>ください。</p> <p>(略)</p>	<p>(別紙7) 講演会、シンポジウム等主催提案書 (略)</p> <p>8. 次第： 主催する委員会等の委員の複数が挨拶又は報告・講演等を行うことが必要です（但し、学術会議の目的に照らして極めて重要な講演会等であって、委員会等ではなく学術会議が主催する講演会等については、挨拶等は一人で足りる）。 該当する報告・講演等については、下線を引いてください。</p> <p>(略)</p>

附則（令和3年 月 日日本学術会議第 回幹事会決定）
この決定は、決定の日から施行する。

日本学術会議主催学術フォーラムの選定及び実施について（平成24年2月20日日本学術会議第146回幹事会決定）の一部を次のように改正する。

改正後	改正前
<p style="text-align: right;">別紙1</p> <p>日本学術会議主催学術フォーラム企画案 募集について（回答）</p> <p>（略）</p> <p>注）1 企画案の提出に当たっては、上記1～7の項目をできるだけ詳細に記入してください。特に講演を企画するに至った企画趣旨は必ず記入してください。 記入漏れのある場合は、書類不備扱いとなり、審議されない場合があります。</p> <p>2 演題・演者が未定の場合には、分野だけでも記入してください。</p> <p>3 <u>登壇者等の多様性も十分に考慮してください。特に、登壇者や発言者等が2人以上いる場合、その「性別に偏りがないよう努めて」</u>ください。</p>	<p style="text-align: right;">別紙1</p> <p>日本学術会議主催学術フォーラム企画案 募集について（回答）</p> <p>（略）</p> <p>注）1 企画案の提出に当たっては、上記1～7の項目をできるだけ詳細に記入してください。特に講演を企画するに至った企画趣旨は必ず記入してください。 記入漏れのある場合は、書類不備扱いとなり、審議されない場合があります。</p> <p>2 演題・演者が未定の場合には、分野だけでも記入してください。</p> <p>3 <u>（新規）</u></p>

附則（令和3年 月 日日本学術会議第 回幹事会決定）
この決定は、決定の日から施行する。

第三部理工学ジェンダー・ダイバーシティ分科会小委員会の設置について

小委員会名：初等中等教育における理数教育に望まれるジェンダーの視点と、
大学、企業の役割小委員会

1	担当部及び関係委員会名	第三部
2	委員の構成	20名以内の会員又は連携会員若しくは会員又は連携会員以外の者
3	設置目的	日本においては、女子の理数系の成績は、国際調査などでは高いにも関わらず、理工系についての進学率が低い状況にある。このような状況は初等中等教育の時期にすでに始まっていて、理工系分野のジェンダーバランスの改善には小中高生への働きかけが、社会の様々なステークホルダーから行われることが望ましい。初等中等教育や新しい ICT 教育、STEAM 教育などの施策において、ジェンダー視点をどのように取り入れるか、また、社会からの働きかけがどのように行われるべきかは、理工系分野にとって重要な問題である。女子の初等中等教育における理数離れの原因と必要とされる施策について、社会学、心理学、教育学等の知見も踏まえて審議するため、これらの分野の専門家も追加した小委員会を設置する。
4	審議事項	1. 初等中等教育における女子の理数系教育についての分析 2. 理数系進学ジェンダー・ダイバーシティの拡大に資する施策 3. 上記に関する提言・シンポジウムに係る審議に関すること
5	設置期間	令和3年9月30日 ～ 令和5年9月30日
6	備考	※新規設置

【委員会】

○委員の決定（追加 1 件）

（薬学委員会）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
加納 信吾	東京大学大学院新領域創成科学研究科メディカル情報生命専攻バイオイノベーション政策分野教授	連携会員

【設置：常設（細則第 10 条第 2 項）、追加決定後の委員数：11 名】

【小委員会】

○委員の決定（新規 2 件）

（電気電子工学委員会デバイス・電子機器工学分科会エレクトロニクス産業と学術小委員会）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
大橋 弘美	古河ファイテルオプティカルデバイス株式会社技術統括部長	第三部会員
中野 義昭	東京大学大学院工学系研究科教授	第三部会員
小野寺 秀俊	京都大学大学院情報学研究科教授	連携会員
小山 二三夫	東京工業大学科学技術創成研究院教授	連携会員
高木 信一	東京大学大学院工学系研究科教授	連携会員
為近 恵美	横浜国立大学成長戦略研究センター教授	連携会員
富永 依里子	広島大学大学院先進理工系科学研究科准教授	連携会員
波多野 睦子	東京工業大学工学院電気電子系教授	連携会員
森 勇介	大阪大学大学院工学研究科教授	連携会員

【設置：第 315 回幹事会（令和 3 年 8 月 26 日）、決定後の委員数：14 名】

（土木工学・建築学委員会気候変動と国土分科会流域治水に資する建築物の耐水設計検討小委員会）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
田辺 新一	早稲田大学創造理工学部教授	第三部会員
清水 義彦	群馬大学大学院理工学府教授	連携会員
田村 和夫	建築都市耐震研究所代表	連携会員
持田 灯	東北大学大学院工学研究科教授	連携会員

望月 常好	公益社団法人日本河川協会参与	連携会員
-------	----------------	------

【設置：第 315 回幹事会（令和 3 年 8 月 26 日）、追加決定後の委員数：12 名】

○委員の決定（追加 1 件）

（地球惑星科学委員会 IUGS 分科会 IAGC 小委員会）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
川口 慎介	国立研究開発法人海洋研究開発機構副主任研究員	連携会員

【設置：第 304 回幹事会（令和 2 年 11 月 26 日）、追加決定後の委員数：6 名】

令和3年度代表派遣実施計画の追加・変更及び会議派遣者の決定について

以下のとおり、令和3年度代表派遣実施計画の追加・変更及び派遣者の決定を行う。

	会議名称	会 期	開催地/ 形式等	派遣候補者 (職名)	内 容
1	S20(Science 20)会合及び SSH20 (Social Sciences and Humanities 20) 会合	9月22日 ～ 9月23日	ローマ (イタリア)/ハ イブリッド	溝端 佐登史 第一部会員 (京都大学名誉教授・経済研究所特任教授)	<ul style="list-style-type: none"> 代表派遣実施計画の追加 派遣者の決定 ※オンラインでの参加 ※第314回幹事会(令和3年7月29日)にて、梶田隆章第三部会員(東京大学宇宙線研究所教授)、高村ゆかり第一部会員(東京大学未来ビジョン研究センター教授)、秋葉澄伯連携会員(弘前大学特任教授)、郡山千早連携会員(鹿児島大学大学院医歯学総合研究科教授)、城山英明連携会員(東京大学大学院法学政治学研究科教授)の派遣を了承
				城山 英明 連携会員 (東京大学大学院法学政治学研究科教授)	<ul style="list-style-type: none"> 代表派遣の取止め ※第314回幹事会(令和3年7月29日)にて派遣決定

	会議名称	会 期	開催地/ 形式等	派遣候補者 (職名)	内 容
2	アジア科学アカデミー・科学協会連合 (AASSA) 総会及び理事会	未定 ↓ 10月15日	シドニー (オーストラリア) ↓ オンライン	吉野 博 連携会員 (東北大学名誉教授、秋田県立大学客員教授、前橋工科大学客員教授)	・派遣者の決定 ※実施計画については第308回幹事会(令和3年2月25日)にて承認済み。
				澁澤 栄 連携会員 (東京農工大学卓越リーダー養成機構特任教授)	・代表派遣実施計画の追加 ・派遣者の決定
3	アジア社会科学研究協議会連盟 (AASSREC) 第24回隔年会議・総会	10月26日 ～ 10月28日	オンライン	日比谷 潤子 第一部会員 (学校法人聖心女子学院 常務理事)	・派遣者の決定 ※実施計画については第308回幹事会(令和3年2月25日)にて2名派遣を承認済み。 ※第315回幹事会(令和3年8月26日)にて山田礼子連携会員(同志社大学社会学部教授)の派遣を了承済み
4	第10回国際古地震・活構造・考古地震学会議	11月4日 ～ 11月14日 ↓ 中止	オルニトス (チリ)	—	・代表派遣の取りやめ ※新型コロナウイルスの影響により今年度の開催なし(来年度に延期予定)
5	第30回国際地図学会議ユビキタス・マッピング委員会会議等	12月14日 ～ 12月18日	フィレンツェ (イタリア) / ハイブリッド	若林 芳樹 特任連携会員 首都大学東京大学院都市環境科学研究科教授	・派遣者の決定 ※実施計画については第308回幹事会(令和3年2月25日)にて承認済み。 ※オンライン参加

令和3年度フューチャー・アースに関する国際会議等への代表者の派遣

番号	国際会議等	会 期		開催地/開催形式	派遣候補者 (職名)	備 考
			計			
1	フューチャー・アース総会 (Assembly)	9月29日～30日	2日	オンライン	高村 ゆかり 第1部会員 (東京大学未来ビジョン研究センター教授)	第1区分
2	フューチャー・アース総会 (Assembly)	9月29日～30日	2日	オンライン	春日 文子 連携会員 (国立研究開発法人国立環境研究所特任フェロ ー)	第1区分

※令和3年度フューチャー・アースに関する国際会議等への代表者の派遣の基本方針（令和3年3月25日日本学術会議第309回幹事会決定）に基づく区分

※日程に変更があった場合は、その日程とする。

●令和3年度フューチャー・アースに関する国際会議等への代表者の派遣の基本方針

〔 令和3年3月25日
日本学術会議第309回幹事会決定 〕

国際学術プログラムであるフューチャー・アース（以下「フューチャー・アース」という。）の推進を図るため、日本学術会議の行う国際学術交流事業の実施に関する内規（以下「内規」という。）に基づき、令和3年度におけるフューチャー・アースに関する国際会議等への代表者の派遣の基本方針を以下のとおり定める。

フューチャー・アースにおいては、日本学術会議が日本の代表機関として国際本部事務局の機能（日本支部）の一部を担っていること、また、日本学術会議連携会員が国際本部事務局日本支部事務局長を務めていることから、令和3年度の内規第51条の各区分における国際会議等への代表者の派遣は下記の考えに基づいて行う。

(1) 第1区分

- ・フューチャー・アースの国際的な推進体制の中心である諮問委員会（AC: Advisory Committee）、評議会（GC: Governing Council）、レビューパネル及び国際本部事務局の行う会議へ、国際本部事務局日本支部事務局長（連携会員）を含む会員等を派遣する。
- ・本年度、AC及びGCは各一回程度、国際本部事務局会合は数回程度の開催が見込まれる。

(2) 第2区分

- ・フューチャー・アースの実施に当たり、国際本部事務局及びアジア地域事務局が行う会議へ国際本部事務局日本支部事務局長（連携会員）を含む会員等を派遣する。
- ・具体的には、日本学術会議が国際本部事務局として運営の一部を担う予定であるグローバル研究プロジェクトに関する会議、タスクフォース及びKAN（Knowledge-Action Networks）に関する会議等への派遣を行う。
- ・上記については本年度それぞれ数回程度見込まれる。

(3) 第3区分

- ・フューチャー・アースに関する活動を広報周知するため、国際学術団体等が行う会議へ国際本部事務局日本支部事務局長（連携会員）を派遣する。
- ・上記に当たっては、国連の行う会議等の分野横断的、あるいは地域的な広がりがあるものを優先する。
- ・さらに、予算の状況に応じフューチャー・アースに関連するその他のグローバル研究プロジェクトの会議へ会員等を派遣する。

本基本方針に基づいて国際会議等への代表者の派遣を行う場合は、別添の様式にて事前に幹事会の議決に付すものとする。

※第 312 回幹事会（令和 3 年 5 月 27 日）において承認済みの公開シンポジウムについて、開催を中止するもの（今後の開催については検討し改めて提案を行うこととする）。

公開シンポジウム「オープンサイエンスをめざしたデジタル農業の胎動」の開催について

1. 主 催： 日本学術会議農学委員会・食料科学委員会合同農業情報システム学分会
日本学術会議農学委員会農業生産環境工学分会
日本生物環境工学会
2. 後 援： 日本農業工学会、農業情報学会、農業食料工学会、農業農村工学会、農業施設学会、日本農業気象学会、生態工学会、園芸学会（すべて予定）
3. 日 時： 令和 3 年 9 月 8 日（水）13:15～15:50
4. 場 所： 神戸大学農学部 C101 教室（神戸市灘区六甲台町 1-1）
（オンライン開催に変更する可能性あり）
5. 分科会等の開催： なし

6. 開催趣旨：

情報技術革新の波が食料・農業・農村の分野にも広く普及しつつあり、データや情報を人々が共有することにより、懸案である気候変動や食料・資源・エネルギーおよび後継者減少や高齢化、格差の拡大などの深刻な諸問題の同時解決の道筋が模索できるようになってきた。内閣府は戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)において農業分野のスマートフードチェーン構築とスマート農業技術を取り上げ、農林水産省はスマート農業加速化事業を推進しており、今後も府省を問わず急進的イノベーションによる大がかりな社会システム変革プログラムが提案されるものと考えられる。一方、農業現場では革新的な新技術に対する期待と戸惑いがあり、「技術は豊かだが応用が貧困」の懸念をもちつつ、スマート農業の実行により産み出される膨大なデータの取り扱い方法の模索をはじめている。

本シンポジウムでは、急進的農業イノベーションの期待と展望に注目する一方、データの共有化とオープンサイエンスの広がりに着目し、変貌しつつある農業の実態やその展望について学術交流し、農業の将来展望を広く市民と共有することに資する。

7. 次 第：

司会：彦坂晶子（日本学術会議連携会員、千葉大学園芸学研究科准教授）

13:15-13:25 開会の挨拶

澁澤 栄（日本学術会議連携会員、東京農工大学特任教授・慶應義塾大学特任教授）

13:25-14:05 オープンサイエンスの広がり と 農業（仮）

池谷 瑠絵（情報・システム研究機構リサーチ・アドミニストレーター）

14:05-14:45 SDGs2030 をめざした破壊的農業イノベーションの課題（仮）

野口 伸（日本学術会議連携会員、北海道大学大学院農学研究院教授）

14:45-15:00 休憩

15:00-15:40 SDGs2030 をめざした革新的植物工場システムの課題と展望（仮）

高山 弘太郎（日本学術会議第二部会員、豊橋技術科学大学機械工学系教授・愛媛大学農学研究科教授）

15:40-15:50 閉会の挨拶

安永 円理子（日本学術会議連携会員、東京大学大学院農学生命科学研究科准教授）

8. 関係部の承認の有無：第二部承認

（下線の講演者等は、会員および分科会委員）

以上

公開シンポジウム「地域共生社会における薬剤師像を発信する」の開催について

1. 主 催：日本学術会議 薬学委員会、日本薬学会
2. 共 催：なし
3. 後 援：公益社団法人日本薬剤師会、一般社団法人日本病院薬剤師会、一般社団法人医療薬学会、公益社団法人薬剤師認定制度認証機構、一般社団法人薬学教育評価機構
4. 日 時：令和3年11月3日（水、祝日）13:00～17:10
5. 場 所：オンライン開催
6. 分科会の開催：開催なし
7. 開催趣旨：近年の社会情勢の激変と相まって、持続可能な医療を担う薬剤師や創薬の専門家の育成に対する社会の要請や薬学教育を取り巻く環境はダイナミックに変化しています。特に、薬学教育モデル・コアカリキュラムの見直しや、卒後研修・専門薬剤師制度について検討が行われるなど、薬剤師の資質向上と職能に関する議論が活発に行われています。本シンポジウムでは、医学・看護学の教育動向も踏まえながら、地域共生社会で求められる薬剤師について議論を深めます。
8. 次 第：

前半司会：堤 康央(日本学術会議連携会員、大阪大学大学院薬学研究科 教授)

13:00 開会挨拶
望月 眞弓(日本学術会議副会長、慶應義塾大学 名誉教授)
佐々木 茂貴(日本薬学会会頭、長崎国際大学薬学部 教授)

13:10 趣旨説明
入江 徹美(日本学術会議連携会員、熊本大学 名誉教授)

13:15 提言「持続可能な医療を担う薬剤師の職能と生涯研鑽」の発出とその後の対応
安原 真人(日本学術会議連携会員、帝京大学薬学部 特任教授)

13:35 卒前・卒後医学教育の動向
北村 聖(地域医療振興協会 シニアアドバイザー)

14:00 多職種との連携・協働を発展できる看護職の教育
小松 浩子(日本学術会議第二部会員、日本赤十字九州国際看護大学 学長)

14:25 総合討論 1

- 14:45 休憩
後半司会：石井 伊都子(日本学術会議連携会員、千葉大学医学部附属病院 教授)
- 14:55 厚生労働省「薬剤師の養成及び資質向上等に関する検討会」で議論されたこと
と
西島 正弘 (薬学教育評価機構 理事長)
- 15:20 日本薬剤師会の政策提言について
山本 信夫 (日本薬剤師会 会長)
- 15:45 医療機関における薬剤師の卒後研修とキャリアパス
山田 清文 (日本病院薬剤師会理事、名古屋大学医学部附属病院 教授)
- 16:10 薬剤師の専門性のあり方について
矢野 育子(日本学術会議連携会員、神戸大学医学部附属病院 教授)
- 16:30 総合討論 2
- 16:50 文部科学省挨拶
対応者調整中
- 16:55 厚生労働省挨拶
安川 孝志 (厚生労働省医薬・生活衛生局総務課)
- 17:00 閉会挨拶
平井 みどり(日本学術会議連携会員、兵庫県赤十字血液センター 所長)

9. 関係部の承認の有無：第二部承認

(下線の講演者は、主催委員会委員)

公開シンポジウム

「カーボンニュートラルに向けた熱エネルギー利用の可能性と課題（仮）」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議 化学委員会・総合工学委員会・材料工学委員会合同 触媒化学・化学工学分科会、日本学術会議 環境学委員会環境科学分科会、日本学術会議 総合工学委員会エネルギーと科学技術に関する分科会
2. 共 催：公益社団法人化学工学会、早稲田大学理工学術院総合研究所
3. 後 援：公益社団法人日本化学会、一般社団法人日本機械学会、一般社団法人日本鉄鋼協会、一般社団法人石油学会、一般社団法人触媒学会、一般社団法人廃棄物資源循環学会、一般社団法人資源・素材学会、公益社団法人日本伝熱学会、一般社団法人日本エネルギー学会、一般社団法人エネルギー・資源学会、一般社団法人環境資源工学会、日本 LCA 学会、NPO エコデザイン推進機構
4. 日 時：令和 3 年 11 月 6 日（土）13：00～17：15
5. 場 所：早稲田大学リサーチイノベーションセンター（121 号館）
カンファレンスルーム
オンラインハイブリッド形式
6. 分科会等の開催：開催予定
7. 開催趣旨：昨年 10 月に日本政府によって 2050 年までに温室効果ガスの排出を実質ゼロにするカーボンニュートラルが宣言され、脱炭素社会実現に向けた取組みが加速している。日本の最終エネルギー消費のうち直接的な電力としての利用は 26%で、残りの 70%以上が化石燃料を用いた熱利用である。その一方で、全体として投入された一次エネルギーのうち 6 割以上が最終的に熱として廃棄されている。また、再生可能エネルギーの大量導入に伴って必要となる蓄エネルギーの手段としても熱エネルギー利用が注目を集めている。このような状況を考えると、カーボンニュートラル実現にとって生産プロセスにおける熱利用の脱炭素化や排熱など未利用熱エネルギーの活用は避けて通れない課題であると言えるだろう。本シンポジウムでは、技術、コスト、利便性、インフラ整備などの点で不利な条件が多く、進展への道筋が見えにくかった熱エネルギー利用の可能性と課題を考え、その重要性への理解を広めることを目的としている。
8. 次 第：
13：00 開会挨拶

所 千晴（日本学術会議第三部会員、早稲田大学創造理工学研究科/
東京大学大学院工学系研究科教授）

13：05 趣旨説明

藤岡 恵子（日本学術会議特任連携会員、株式会社ファンクシヨナル・フルイッド代表取締役社長）

13：20 講演「未利用熱エネルギーの現状と活用への展望（仮）」

小原 春彦（国立研究開発法人産業技術総合研究所執行委員・エネルギー環境領域領域長）

13：50 講演「産業分野のカーボンニュートラル化に求められる熱利用（仮）」

川村 公人（アサヒクオリティードイノベーションズ株式会社社長付顧問）

14：20－14：30 （ 休憩 ）

14：30 講演「再生可能エネルギー導入拡大に貢献する蓄熱・発電（仮）」

岡崎 徹（一般財団法人エネルギー総合工学研究所）

15：00 講演「熱エネルギー利用のためのインフラ・システム・制度など社会的条件の検討（仮）」

茂木 正（経済産業省資源エネルギー庁省エネルギー・新エネルギー部長）

15：30－15：40 （ 休憩 ）

15：40 総合討論

（司会）未定

（コメンテーター）小原春彦、川村公人、岡崎徹、能村貴宏（北海道大学大学院工学研究院附属エネルギー・マテリアル融合領域センター准教授）

17：10 閉会挨拶

岩城 智香子（日本学術会議連携会員、東芝エネルギーシステムズ株式会社エネルギーシステム技術開発センターシニアフェロー）

9. 関係部の承認の有無：第三部承認

（下線の登壇者は、主催分科会委員）

公開シンポジウム「防災教育と災害伝承」の開催について

1. 主 催：日本学術会議 防災減災学術連携委員会
2. 共 催：一般社団法人 防災学術連携体
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和 3 年 11 月 6 日（土）14 時 30 分から 16 時 00 分
5. 場 所：オンライン開催
* 本案は、防災推進国民大会 2021（主催：内閣府、防災推進協議会、防災推進国民会議）の中の一企画案である。
6. 委員会の開催：なし

7. 開催趣旨：

2011 年東北地方太平洋沖地震により引き起こされた未曾有の大災害：東日本大震災発災から十年が経過した。発災の直後の被災対応から始まり、多くの課題を抱えつつ、復旧、復興に向けた様々な活動が進められてきている。津波による被害、地震の揺れによる被害、原子力事故などに起因する様々な災害が生じ、被災地や周辺地域での社会生活に大きな困難を及ぼしている。今後引き続き復興に向けた取組みを継続していくのと同時に、この多くの犠牲を受けた災害から得た貴重な教訓を、東北と日本の今後の安全な社会実現のために活かしていく必要がある。一方、防災・減災に関わる学術分野においても、広域に生じた実に多様な被害実態とその分析から得られた新しい知見を、社会に展開していく責任がある。

災害軽減のためには、ハードからソフトの日頃の備えが重要であり、防災の実効性を高めるためには、過去の教訓を踏まえた上で、まず災害発生の本質をお年寄りから子供までが理解し、被災時の対応法も含めた日頃の備えをしておくことが極めて重要である。そのためには、学校や社会における正しい防災教育と、その基となる災害そのもの、災害から得られた教訓を記録に残し、後世にきちんと伝えていくことが必要である。

本シンポジウムでは、東日本大震災後の 10 年間の経験と教訓を踏まえ、今後の防災教育と災害伝承のあり方、および進めるべき取組みについて、学術分野から発信する。

8. 次 第：(下線の講演者等は、主催委員会委員)

司会 田村和夫 (日本学術会議連携会員、防災学術連携体事務局長)

14:30 趣旨説明 米田雅子 (日本学術会議第三部会員、防災減災学術連携委員会委員長、東京工業大学環境・社会理工学院特任教授)

14:35 基調講演 (仮) 釜石市における防災教育と災害伝承
講演者：いのちをつなぐ未来館 名誉館長 加藤孔子 (岩手大学教育学研究科 教職大学院 特命教授)

14:50 「防災教育と災害伝承」について学協会からの発表 (各 10 分)

- (1) 災害の記憶を継承するための工夫 (日本建築学会 西澤泰彦 (名古屋大学))
- (2) 災害エスノグラフィーを活用した自治体職員による災害伝承の取り組み (地域安全学会 柳谷理紗 (仙台市役所)、田中聡 (常葉大学))
- (3) 復興技術の伝承 (日本都市計画学会 姥浦道生 (東北大学))
- (4) 地理空間情報を活かした防災教育と災害伝承 (日本地図学会 岡谷隆基 (国土地理院))
- (5) 福島原発災害復興とふるさと創造学 (山川充夫 (日本学術会議連携会員、日本地理学会、福島大学名誉教授/客員教授))
- (6) 学校・地域で進める防災教育と災害伝承 (日本安全教育学会 戸田芳雄)

15:50 閉会挨拶 大友康裕 (日本災害医学会代表理事、東京医科歯科大学教授、防災学術連携体代表幹事)

(下線の講演者は、主催委員会委員)

公開シンポジウム

「21 世紀の国難災害を乗り越えるレジリエンスとは～防災統合知の構築戦略～」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議土木工学・建築委員会 IRDR 分科会

2. 共 催：防災減災連携研究ハブ(JHoP)

3. 後 援：なし

4. 日 時：令和 3 年 11 月 6 日（土）16：30～18：00

5. 場 所：オンライン(zoom)

6. 分科会等の開催：なし

7. 開催趣旨：南海トラフ地震、首都直下地震など巨大災害の発生が切迫している。また、地球規模の気候変動により、全国的に甚大な水害の発生の危険性が高まっていて、経済・社会活動が集中する首都圏では深刻である。こうした国難級リスクに適切に備え、被害を軽減し、並びに早期に回復する力、つまり災害レジリエンスの向上を図るためには、既存の学問分野の枠組みに囚われず、人文社会科学も含めた「総合知」により立ち向かう必要がある。他分野で活躍する日本を代表する研究者らによって、その構想や戦略について討議する。

8. 次 第：

16：30 開会挨拶

林春男（日本学術会議連携会員、国立研究開発法人防災科学技術研究所理事長）

16：35 災害レジリエンスの「型」の構築

永松伸吾（国立研究開発法人防災科学技術研究所災害過程研究部門
部門長／関西大学社会安全学部教授）

16：45 災害レジリエンスを見える化するには

越村俊一（東北大学災害科学国際研究所教授）

16：55 洪水予測を効果的に用いてレジリエンスを高めよう

宮本守（国立研究開発法人土木研究所水災害・リスクマネジメント
国際センター 研究員）

17：05 防災時に見られる行動とあるべき姿を求めて

- 大西正光（京都大学防災研究所巨大災害研究センター准教授）
- 17：15 被災現場の知見をいかにつないでいくのかー実務者と研究者の共創的
取り組みー
- 荒木裕子（名古屋大学減災減災連携研究センター特任准教授）
- 17：25 レジリエンスを高めるオンライン・シンセシス・システムと学術変革
井ノ口宗成（国立研究開発法人防災科学技術研究所主幹研究員／富
山大学都市デザイン学部准教授）
- 17：35 総合討論
（司会）川崎 昭如（日本学術会議連携会員、東京大学特任教授、
未来ビジョン研究センター グローバル・コモンズ・センター）
- 17：55 閉会挨拶
小池俊雄（日本学術会議第三部会員、国立研究開発法人土木研究所水
災害・リスクマネジメント国際センター（ICHARM）センター長）

9. 関係部の承認の有無：第3部承認

10. 申し込み方法・連絡先

水元伸一（国立研究開発法人防災科学技術研究所）<mizumotos@bosai.go.jp>
（定員になり次第締め切り）

（下線の登壇者は、主催分科会委員）

公開シンポジウム「フードシステムと養殖の未来」の開催について

1. 主催：日本学術会議食料科学委員会水産学分科会
2. 共催（予定）：水産・海洋科学研究連絡協議会、日本農学アカデミー、日本水産学会、東京海洋大学
3. 後援（予定）：大日本水産会、全国漁業協同組合連合会、水産海洋学会、日本付着生物学会、日本魚病学会、国際漁業学会、日本ベントス学会、日本魚類学会、地域漁業学会、日仏海洋学会、日本海洋学会、日本水産増殖学会、マリンバイオテクノロジー学会、日本水産工学会、日本プランクトン学会、漁業経済学会、日本藻類学会、日本海洋政策学会
4. 日時：令和3年11月12日（金）13：00-17：00
5. 場所：（予定）オンライン
6. 分科会等の開催：あり

7. 開催趣旨：私たちの食生活は高度に発達したフードシステムによって支えられている。食市場が地球全体に拡大して世界各地で生産された多様な食材が食卓に上るようになり、食生活は豊かになった。同時に、生産から加工、流通、消費そして廃棄に至るフードシステムが抱える課題も大きくなってきた。食料生産が環境や生態系に及ぼす弊害に対してはこれまでもさまざまな対策が講じられてきたが、規模の拡大につれてその影響はますます大きくなっている。IPCCによればフードシステムからの温室効果ガス排出量は全排出量の21～37%を占めるに至っている。さらに、世界人口の約1割が飢餓で苦しむ一方で、世界の食料生産の約3分の1が廃棄されている状況も加わり、これからのフードシステムのあり方、その持続可能性が問われている。こうした中でこれからの養殖に求められるものは何か。現在、世界的に増大する水産物需要は今後も拡大すると予想され、安定的かつ持続的な水産物の供給は我が国を含め世界共通の課題である。それへの対応として水産養殖の発展が期待されている。このシンポジウムでは、これからのフードシステムにおける養殖のあり方について、最前線の研究開発に加えて産業論や社会論の視点からも議論を行い、アカデミアにとどまらず広く社会に問題提起することを目的とする。

8. 次第：

13：00-13：05 趣旨説明

古谷 研（創価大学大学院理工学研究科、日本学術会議第二部会員）

座長：伊藤 進一（東京大学大気海洋研究所）

13：05-13：35 「持続可能なフードシステムの構築」

中嶋 康博（東京大学大学院農学生命科学研究科、日本学術会議第二部会員）

13：35-14：00 「魚病および環境負荷について」

笠井 久会（北海道大学大学院水産科学院、日本学術会議連携会員）

- 14 : 00-14 : 25 「養魚飼料の現状と未来」
佐藤 秀一（東京海洋大学学術研究院、日本学術会議連携会員）
- 座 長：佐野 元彦（東京海洋大学学術研究院）
- 14 : 25-14 : 50 「ゲノム編集育種の現状と課題」
木下 政人（京都大学大学院農学研究科）
- 14 : 50-15 : 05 休 憩
- 15 : 05-15 : 30 「持続可能な食肉生産を目指した培養ステーキ肉の開発」
島 亜衣（東京大学大学院情報理工学系研究科）
- 15 : 30-15 : 55 「水産物流通消費の特徴と食品ロス」
八木 信行（東京大学大学院農学生命科学研究科、日本学術会議連携会員）
- 15 : 55-16 : 55 総合討論
司会：萩原 篤志（長崎大学大学院水産・環境科学総合研究科、日本学術会議連携会員）
パネリスト：井出 留美（(株) office 3.11）、笠井 久会、木下 政人、
佐藤 秀一、島 亜衣、中嶋 康博、八木 信行
- 16 : 55-17 : 00 閉会の挨拶 佐藤 秀一
9. 関係部の承認の有無：第二部承認

（下線の講演者等は、主催委員会（分科会）委員）

公開シンポジウム「政治学におけるアナーキズムの意味 ～社会と国家をとらえ直す～」の開催について

1. 主 催：日本学術会議政治学委員会政治思想・政治史分科会
2. 共 催：北海道大学法学研究科・高等法政教育研究センター
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和3年11月12日（金）17：30～19：30
5. 場 所：オンライン開催
6. 分科会等の開催：なし

7. 開催趣旨：

近年の自由民主主義体制においては、従来型の政治制度の機能不全が懸念されている。議会などの統治機構や個々の政治家・官僚と、有権者とのつながりが自明視できなくなっている状況は、いずれ政治総体への不信感にもつながりかねない。これに加えて、日本においては、制度外からの陳情や社会運動などの政治参加も活発とは言い難い。このため、政治学においても、民主制の要請と政治参加の実態とのギャップを埋める努力が必要になっている。

しかし、もともと政治は公式の政治制度に関わることだけに限られるものではない。現代のような主権国家・国民国家も、それ単独で成立しているわけではない。国の取り組みと並行しつつ、人々は感染症流行下でも何とか自分たちなりに生きていこうと努力する。制度上の指示や法令だけが行動基準ではなく、それを自分たちで解釈し、独自の判断を積み重ねていく。こうした状態をアナーキー（無秩序状態）だと批判することもできるだろうが、他方でこのアナーキーが政治の生誕する場所であることも否定できず、ここからは逆に国家と有権者との新しい関係構築を含めて、さまざまな政治構想を考案することが可能になる。

本シンポジウムでは、制度不信としての政治不信が懸念される中で、ポスト・コロナ時代の政治がいかなるものであり得るのか、アナーキズムを題材に考えていきたい。報告者には、戦前期日本のアナーキズムについて業績がある研究者、現代思想とアナーキズムについて業績がある研究者、近年活性化を見せる国際的な社会運動について業績がある研究者を招き、さまざまな時代・思想の観点か

ら議論をおこなっていく。

8. 次 第：

司会：早川 誠（日本学術会議連携会員、立正大学法学部教授）

17:30-17:32 挨拶

辻 康夫（日本学術会議連携会員、北海道大学大学院法学研究科教授・高等法
政教育研究センター長）

17:32-18:42 報告

梅森 直之（早稲田大学政治経済学術院教授）

～日本政治思想史の観点から～

重田 園江（明治大学政治経済学部教授）

～現代政治理論の観点から～

山崎 望（駒澤大学法学部教授）

～国際政治・運動の観点から～

18:42-19:00 コメント

田村 哲樹（日本学術会議連携会員、名古屋大学大学院法学研究科教授）

松本 彩花（日本学術振興会特別研究員）

19:00-19:30 ディスカッション

9. 関係部の承認の有無：第一部承認

（下線の講演者は、主催分科会委員）

公開シンポジウム
「なぜ SDGs?—資源・材料循環における SDGs—」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議 材料工学委員会・総合工学委員会・環境学委員会
SDGs のための資源・材料の循環使用検討分科会
2. 共 催：東京大学、東京大学生産技術研究所非鉄金属資源循環工学寄付研究部門（案）
3. 後 援：レアメタル研究会、日本鋳業協会、石油天然ガス・金属鉱物資源機構、資源・素材学会、化学工学会、環境資源工学会、資源地質学会、日本金属学会、軽金属学会、日本化学会、日本鉄鋼協会、鋳業新聞社、産業新聞社、セメント新聞社、鉄鋼新聞社、日本砕石新聞社（案）
4. 日 時：令和3年11月26日（金）14：00～18：00
5. 場 所：東京大学生産技術研究所コンベンションホール
オンライン配信予定あり
6. 分科会の開催：開催予定
7. 開催趣旨：SDGsの中でも目標12「つくる責任つかう責任」に直接的に関係し、昨今のカーボンニュートラル政策においても一層の促進が重要視されている資源材料循環は、社会システムの的にも技術的にも変革が求められている。資源循環に対する課題は物質ごとに大きく異なるため、本シンポジウムでは特に非鉄金属におけるその現状と課題を俯瞰し、市民と共にその理想的な循環のあり方を議論する場としたい。
8. 次 第：
 - 14：00 開会挨拶
岡部 徹（日本学術会議第三部連携会員、東京大学教授）
 - 14：10 資源循環とSDGs
中村 崇（日本学術会議第三部連携会員、東北大学名誉教授）
 - 14：55 SDGs への非鉄企業の貢献の現状と展望

—資源・材料循環における SDGs—

安田 豊

(JX 金属 (株) 常務執行役員 金属リサイクル事業部長・技術本部副本部長)

15 : 40 非鉄金属製錬企業の SDGs 取り組みと課題

—プロセス面からの一考察—

黒川 晴正 (東京大学特任教授)

16 : 25 SDGs への鉄企業の貢献の現状と展望

斎藤 公児 (日本製鉄) 打診中

17 : 10 休憩

17 : 25 パネルディスカッション

ファシリテーター 所千晴 (日本学術会議会員、早稲田大学・東京大学教授)

パネラー 川口幸男 (日本メタル経済研究所) 打診中

ならびに講演者

17 : 55 開会挨拶

森田一樹 (日本学術会議第三部連携会員、東京大学教授)

9. 関係部の承認の有無 : 第三部承認

(下線の講演者等は、主催分科会委員)

公開シンポジウム
 科学的知見の創出に資する可視化（6）
 「総合知～幸福論からみた身心・細胞力、その真理の可視化～」
 の開催について

1. 主 催：総合工学委員会 科学的知見の創出に資する可視化分科会
2. 共 催：一般社団法人可視化情報学会、一般社団法人日本応用数理学会、
 一般社団法人日本機械学会、一般社団法人日本計算工学会、一般社団法人日
 本シミュレーション学会、日本身心一体科学研究会、一般社団法人日本女性科
 学者の会
3. 後 援：内閣府（予定）、文部科学省（予定）、経済産業省（予定）、独立
 法人日本学術振興会（予定）、国立研究開発法人科学技術振興機構（予定）、国
 立研究開発法人宇宙航空研究開発機構（予定）、公益社団法人日本自動車技術
 会、他
4. 日 時：令和3年11月30日（火）
 13：00～17：00 公開シンポジウム
5. 場 所：日本学術会議大会議室（登壇者）、オンライン（一般参加者）
6. 分科会等の開催：開催予定
 あり。細胞-身体可塑基盤からの自分を知り育てる科学知見創出に資する可
 視化小委員会開催 11:00～12:00
7. 開催趣旨：2020年以降、人々は長期化するCOVID-19パンデミックに対応
 する中で、人と人の物理的距離を置くソーシャル・ディスタンスや実空間での
 対面を介さないテレワークなどの新たな生活様式（ニューノーマル）を体験
 し、順応し、当初の違和感を減じつつある。また、人工知能（AI）やデジタル
 トランスフォーメーション（DX）技術の急速な進展に伴い、諸活動の迅速性・
 正確性・利便性は増す一方で、負の影響も懸念される。
 本シンポジウムでは、自然科学と人文社会科学の英知を結集した「総合知」
 の観点から、Society5.0や宇宙旅行時代の到来とともに予見される身体感覚の
 希薄化、身体のダイナミズムにおける「重力」意識の変化について論じる。ま
 た、古今の多彩な「幸福論」に照らし、身心・細胞力、性差の理解を通じて、
 人間存在と生命の真理の可視化・概念化に挑む。
8. 次 第：
 総合司会
 跡見 順子（日本学術会議特任連携会員、東京農工大学工学府客員教授・東
 京大学名誉教授）

- 13:00-13:05 挨拶 吉村 忍 (第三部部長、日本学術会議第三部会員、東京大学大学院工学系研究科教授)
- 13:05-13:10 挨拶 萩原 一郎 (分科会委員長、日本学術会議連携会員、明治大学研究・知財戦略機構研究特別教授)
- 13:10-13:15 来賓挨拶 総合科学技術・イノベーション会議 (調整予定)
- 13:15-13:20 来賓挨拶 文部科学省 (調整予定)
- 13:20-13:25 塩満典子 (文部科学省科学技術・学術政策研究所上席フェロー)
「総合知による科学技術イノベーション」
- 13:25-13:55 講演 萩野 弘之 (上智大学大学院哲学専攻教授)
「「幸福とは何か」とはいかなる問いか？」
- 13:55-14:00 小憩 ビデオメッセージ (調整中) Fiona M. Watt 教授
(Director, Centre for Stem Cells & Regenerative Medicine, King's College London, UK)
“Building public trust in science.”
- 14:00-14:30 講演 林 伴子 (内閣府男女共同参画局長)
「科学技術・イノベーション分野における女性活躍」(仮題)
- 14:30-15:00 講演 山口 香 (日本学術会議第二部会員、筑波大学体育系教授)
「嘉納治五郎が目指した日本人の心と身体」
- 15:00-15:15 質疑応答
- 15:15-15:45 講演 毛利 衛 (宇宙飛行士、国立研究開発法人科学技術振興機構・参与、日本科学未来館名誉館長)
「宇宙からの視点～総合知から未来智～」
- 15:45-16:15 講演「総合知～幸福論からみた身心・細胞力、その真理の可視化～」
跡見 順子 (日本学術会議特任連携会員、東京農工大学工学府客員教授・東京大学名誉教授)
- 16:15-16:55 パネルディスカッション「総合知と身心・細胞力」
司会 清水美穂 東京農工大学工学府客員准教授
- 16:55-17:00 閉会の挨拶
小山田 耕二 (総合工学委員長、日本学術会議第三部会員、京都大学学術情報メディアセンター教授)

9. 関係部の承認の有無：第三部承認

10. 申し込み方法・連絡先

申し込み方法 Google form 等

連絡先 清水美穂 (東京農工大学工学府客員准教授)

<mshzmz@cc.tuat.ac.jp>

200名（超える場合は限定公開 Youtube ストリーミング）

（下線の登壇者は、主催分科会委員）

1 1. その他

（新型コロナウイルス感染症の対策について）

当日は登壇者および関係者のみ学術会議大会議室に来ていただくこととする。しかしながら、今後の感染状況や国の方針等から総合的に判断し、完全オンライン化など、適宜運営の見直しを行う。

新型コロナウイルス感染症拡大防止のための取組については以下のとおり

1. 風邪の症状等のある方の入場を制限する

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、風邪の症状（発熱や咳など比較的軽い風邪症状、味やにおいの感じ方がおかしいと感じたときを含む。）のある方、及び2週間以内に海外から帰国・入国した方の施設へのご入場をご遠慮いただく。ご理解を求めます。

2. マスク着用の協力をお願いする

3. 出入口に消毒液を準備する

4. 3密（密閉・密集・密接）を避ける

5. 換気に配慮する

公開ワークショップ

『Future Earth 持続可能な社会の創り手を育てる学び～海の学び、ESD/SDGs
の学びを豊かに～』の開催について

1. 主催：日本学術会議フューチャー・アースの推進と連携に関する委員会
持続可能な発展のための教育と人材育成の推進分科会
2. 共催：なし
3. 後援：地理学連携機構（予）、日本ESD学会（予）、ESD活動支援センター（予）、特定NPO法人ESD-J（予）、公益財団法人ユネスコアジア文化センター（予）
4. 日時：2021年12月19日（日）13:00～16:00
5. 場所：Zoomによるオンライン会議
6. 分科会等の開催：あり（ワークショップの後、16:00～17:00）
7. 開催趣旨：
当分科会は地球環境に関する教育を推進する上で不可欠な学術研究と教育の協働と交流の推進に努めており、その一環として『学術の動向』2020年7月号に特集「学校教育とESD・SDGs・フューチャー・アース」を掲載した。これは第24期に学校教育の現場からの情報や意見を学術会議での活動に反映させるために当分科会に設置された「ESD・SDGs小委員会」と「持続可能な発展のための海洋教育と人材育成小委員会」の活動の成果の一部を紹介したものである。それを踏まえつつ、両小委員会は第25期、「ESD/SDGsカリキュラム小委員会」と「海の学びカリキュラム小委員会」に衣替えし、学校全体のカリキュラムマネージメントと評価、地域学習の実践や学校と地域社会の連携による地域づくり実践の強化などの喫緊の課題についての議論を深めている。本ワークショップは、分科会委員、現場教員、科学コミュニケーター等からの報告をもとに、それらの課題について学校の教員・生徒、学生を含む多様な参加者全員で、オンライン会議ツールのZoomを用いて多角的に考えるものである。
8. 次第：
総合司会：鈴木康弘（日本学術会議連携会員、名古屋大学減災連携研究センタ

一教授)

13:00～13:10 開会挨拶・趣旨説明

氷見山幸夫 (日本学術会議連携会員、北海道教育大学名誉教授)

報告

I部 海の学び

13:10～13:30 報告1 「with コロナ時代のカリキュラムの一考察～海と学習者を結ぶ～」

日置 光久 (日本学術会議連携会員、東京大学大学院教育学研究科附属海洋教育センター特任教授)

13:30～13:50 報告2 「海と学習者を結ぶオンライン学習の実践」

小澤 鷹弥 (ふなばし三番瀬環境学習館科学コミュニケーター)

13:50～14:10 報告3 「「生きる力」を育成する水害防災教育プログラムの実践」

川真田 早苗 (北陸学院大学子ども教育学科教授)

II部 ESD/SDGs の学び

14:10～14:30 報告4 「地域全体の持続可能な社会の創り手の学び～大牟田市の実践～」

安田 昌則 (前大牟田市教育委員会教育長)

14:30～14:50 報告5 「ホールスクールの ESD カリキュラムと評価方法～大仙市の実践～」

島田 智 (秋田県大仙市立大曲南中学校校長)

14:50～15:10 報告6 「学校と地域社会の連携による地域づくりの実践～飯田市の実践～」

小玉 敏也 (麻布大学生命・環境科学部教授)

15:10～15:15 休憩

15:15～15:55 ディスカッション

司会：山口 しのぶ (日本学術会議連携会員、東京工業大学環境・社会理工学院教授)

コメンテーター：谷口 真人 (日本学術会議連携会員、大学共同利用機関法人人間文化研究機構総合地球環境学研究所副所長)

丹羽 淑博 (日本学術会議特任連携会員、東京大学大学院教育学研究科附属海洋教育センター特任准教授)

15:55～16:00 閉会挨拶

春日 文子 (日本学術会議連携会員、国立研究開発法人国立環境研究所特任フェロー)

以上